

平成30年度第7回政策会議概要

- 1 開催日時：平成30年9月11日（火）9:15～9:40
- 2 開催場所：プレゼンテーションルーム
- 3 議事概要：以下のとおり
（●議題提出部局説明・回答、☆意見・質問）

議題1 平成30年7月豪雨の対応について

●福永防災対策部長（資料1に基づき説明）

各部局におかれては、このたびの平成30年7月豪雨の被災自治体への応援職員の派遣について、格別のご協力をいただき感謝申し上げます。その概要は、資料1のP. 1～2のとおりである。対口支援を行った広島県熊野町へは県・市町職員あわせて144名を派遣した。熊野町以外へは76名を派遣した。これらは専門的なニーズに対応するために、主に各部局が関係省庁と調整のうえ派遣いただいたものである。現在は、復旧・復興のための中長期派遣のフェーズとなっている。今後も応援要請の可能性があるので、各部局におかれては引き続きご協力をお願いする。

●藤川防災対策部次長（資料1に基づき説明）

広島県熊野町、岐阜県に派遣された職員から学びや気づきを集め、明らかとなった課題と対応をとりまとめた。近年、全国各地で災害が発生する中、今回の応援を教訓にしていきたい。今後、応援に行った際にさらに良いパフォーマンスを発揮するとともに、三重県が被災した場合の参考にできればと考えている。県内市町にも結果を共有したいと考えており、すでに9月6日に開催された地域防災研究会でも市町職員に対して説明し、今後、全市町の職員を集めた会議でも共有をしたい。各課題については、資料1のP. 3～5のとおりである。各課題に対する対応については、P. 6のとおりである。今回の対口支援を行う中で、県内市町において様々な学びを得ることができた。復旧に向けていかに支援をしていくのか、県が災害を受けたときにいかに県民生活の安定を取り戻していくのかについて、今回の応援の経験を生かせればと考えており、努力していく。また、各部局におかれては、人材、応援等についてご配慮いただくとともに、スキルアップについては防災対策部として研修等を進めていくのでご協力をお願いする。

（質疑等無し）

議題2 「県民の声を受けて」公表分の概要について

●西城戦略企画部長（資料2に基づき説明）

8月16日及び9月3日付けの県Web（ウェブ）公表分については、県民の声の件数は26件で、県の対応件数は33件であった。

主な内容としては、職員に関するものとして、職員の対応についての意見、苦情が4件、職員の勤務についての意見が1件（別表 No.32 教職員課）の計5件寄せられている。

また、県民の声をを受けて実施した案件で業務の改善等へ反映したのものとして、業務の改善等へ反映したのものとしては、職員の対応についての意見、苦情で2件、県有施設の管理についての苦情で2件の計4件があった。

詳細の内容は省略させていただくが、職員の対応の案件については、以前から指摘されていることが含まれているので、引き続き各部局においては他部に関する意見等を含めて内容を確認いただき、行政運営に活用いただくよう改めてお願いする。

☆稲垣副知事

1 ページの3 番目にある「庁舎のスペースを有効活用してください」という提案に対する、「スペースの有効活用に取り組んでいるところです」という答えはどうか。

もう少し丁寧に答えないといけない。他にもそうしたものはないか。対応に気を付けてもらいたい。事務的にならないようにお願いする。

●西城部長

今の指摘に関して、各部においては、いただいた意見に対する対応について、部としてのチェックを今一度よろしくお願いしたい。私どもでもチェックさせていただくようにする。

議題3 三重県観光振興基本計画年次報告について

●河口観光局長

年次報告は、9 月議会の資料として配布し、常任委員会で説明する。引き続き、オール三重で取り組むための協力をお願いする。詳細は、担当から説明する。

●加納課長【観光政策課】（資料3、チラシに基づき説明）

条例で年1回の公表が定められており、今回、平成29年度分を取りまとめたので報告する。目標のうち、観光消費額は目標を達成、宿泊者数は未達成であった。本年上半期の外国人宿泊者数は、特に注力している重点国等からの伸びが大きい（141.3%）。特にタイは、対前年比 308.5%と大きく伸びた。オール三重で取り組むために各部局での施策の推進や情報発信に引き続きご協力をお願いしたい。

（質疑等なし）

議題4 平成30年度全国高等学校総合体育大会の結果報告について

●三宅課長【全国高校総体推進課】（資料4に基づき説明）

「翔べ 誰よりも高く 東海の空へ」のスローガンのもと、平成30年7月26日から8月

20日までを会期として開催し、警備、交通、保健衛生、観光、企業とのコラボ商品など、本当に多くの部局の皆さんに助けをいただき、インターハイを無事に開催することができた。今後、各種の報告書、記録書、DVDを作成する予定である。

(質疑等なし)

☆鈴木知事

今年度、オール三重で取り組んできたインターハイが無事に終わることができた。皆さんに感謝する。今後の大きなイベントに活かしてほしい。

平成30年7月豪雨の被災自治体に職員を派遣してくれた各部局にあらためて感謝申し上げます。引き続き技術職員を中心とした中長期の支援が必要になってきているので、引き続き協力をお願いします。

直近の北海道で起きた地震への支援は、対口支援も検討されたが、3つの町だけでいいということで、東北ブロックで対応してくれることとなった。総務省のリエゾンも撤退をするという状況のため、7月豪雨と同様の対応を、県としてとる必要はないと思うが、中長期的に技術的な支援が必要になるかもしれないので、交流がある場所であるので、積極的な支援のために今後も協力をお願いしたい。

一方で、たとえば、この15日からはじまる環境生活部が松浦武四郎展で、北海道応援と銘打ってやってくれる。直接的に防災とか災害復旧の支援じゃなくても、応援できることはたくさんあると思う。ぜひ、各部局でよく知恵をめぐらせて応援をしてほしい。

大規模な災害が頻発しているので、31年度に行う事業や政策を検討されているところかと思うが、もう一度、近年頻発している災害の状況について検証・点検し、各部局で検討している政策が、県民のみなさんから見て、安心を提供できるものになっているのかどうか、よく点検をして来年度の施策の提示をお願いしたい。

昨日、障害者雇用の計上誤りと法定点検未実施について記者会見を行った。県民の皆さんの信頼を大きく裏切る事案であり、全庁あげて信頼回復に取り組む必要がある。皆さんの協力をお願いしたい。特に、県警と教育委員会の障害者雇用の計上誤りについては、教育委員会の適正であるという最初の報告を信じるなど、自分自身にも甘さがあったことを後悔し反省している。障がいを持つ皆さん、障害者雇用に協力いただいている企業の皆さんに申し訳ない気持ちだ。両組織とも、極めて同質性の高い職場で、お互いに甘えがあったり、社会の常識からかけ離れた感覚があったのではないかと。再発防止のため、組織全体としてコンプライアンスの体制の整備に、自浄の観点、第三者の観点から取り組んでいくので、全庁あげて

の協力をお願いする。多くの職員は県民のために必死に仕事に取り組んでくれているが、このようなことが起きるとそのような努力までもが水の泡になる。今一度危機感をもって取り組んでもらいたい。県民の皆さんの信頼を回復するのは容易ではない。県民の皆さんの目は極めて厳しいことを自覚し、信頼回復に取り組んでもらいたい。